

# 海外生活 エッセー

シドニー事務所

## ロックダウン中のシドニーでの生活

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 伊藤 大揮 (埼玉県派遣)

### → デルタ株による感染拡大

私が4月から生活しているシドニーを州都とするニューサウスウェールズ (NSW) 州では、6月中旬までは、時折、新規市中感染者の発生がニュースとなったものの、街なかでは、ほぼ感染者がゼロの状況が続き、コロナ禍以前とほとんど変わらない日常生活を送ることができていました。

しかし、国際線でシドニー国際空港に着いた乗務員を乗せた車両の運転手がデルタ株に感染したことが6月中旬に発表されると、デルタ株による感染が瞬く間に拡大しました。そして、シドニー都市圏では6月下旬からロックダウンに入り、9月下旬現在、ロックダウンが続いています。

なお、9月中旬時点での NSW 州での日々の新規感染者数は、1,500 人を超える日もあり、9月下旬現在、すでにロックダウンが導入されてから3か月間近くが経過しているにもかかわらず、日々の新規感染者数は依然として1,000 人を超える日が続いています。

### → NSW 州政府によるロックダウン

NSW 州政府によるシドニー都市圏におけるロックダウンでは、必要不可欠な買い物、医療・介護ケア、運動、必要不可欠な通勤・通学などを除き、外出することが禁止されています。さらに、シドニー都市圏内で感染が大きく拡大しているエリアでは、より厳しい外出制限が課されています。

規制の程度も日本と比較すると大変厳しいですが、日本との最も大きな違いは規制の強制力の強さです。シドニー都市圏では感染対策の一環で、ロックダウン中も営業が認められているスーパーマーケットや薬局などに入る際には、スマートフォンを利用し QR コードにより

チェックイン (入店登録) を行うことやマスク着用が義務付けられています。これらに違反した場合は、容赦なく罰金が科されます。また、NSW 州警察に加え、国防軍隊員が NSW 州保健省による外出制限令や自己隔離命令の遵守状況を確認するため、戸別訪問を行うこととされており、実際に、感染が大きく拡大しているエリアには国防軍隊員が数多く配置されています。

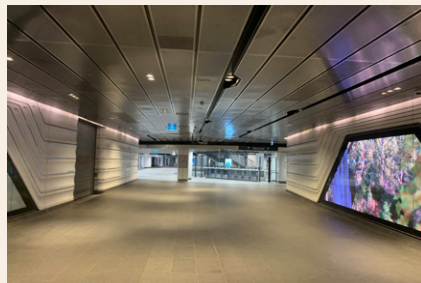
### → ロックダウン中の街の様子

シドニー中心部のオフィス街や駅における人出は、ロックダウン前と比べて著しく少ないです。

しかし、広場や遊歩道が整備された公園には、運動をする市民の姿が多く見受けられます。また、持ち帰りのための営業を行う飲食

店のまわりに人だかりができることもあり、感染対策の難しさを感じています。

最後に、ロックダウンによる厳しい規制と厳しい取り締まりを含め、世界におけるさまざまな新型コロナウイルス対策が成果を上げることを祈念しています。



ロックダウン期間中のシドニー中心部の Wynyard 駅の人影のない様子



ロックダウン期間中の公園の様子